

宮崎県・メガソーラー設置の動き活発

～太陽光発電に適した土地柄～

日本不動産研究所 宮崎支所
不動産鑑定士 西村 哲治

企業や地方公共団体の所有する遊休地の利活用策として、全国的にメガソーラーに注目が集まっている。メガソーラーの設置に関連して、平成24(’12)年7月1日からは「再生可能エネルギーの固定価格買取制度」に基づく全量買い取り制度がスタートした。

宮崎県は、日向国（日に向かう国）と過去に呼ばれていたことから分かります。歴史的にも太陽がさんさんと降り注ぐ土地柄で、宮崎県の年間日照時間や住宅用太陽光発電システムの普及率は全国トップレベルにある。太陽光発電に非常に適した宮崎県内での、太陽光発電に関する動きは、遊休資産の活用という面で非常に参考となる事例といえるのではないだろうか。

宮崎県では太陽光発電に適した立地環境を活かすため、太陽光発電に関する企業立地を推進してきたところであり、平成19(’07)年から平成23(’11)年にかけて、太陽電池製造メーカーのソーラーフロンティア株式会社が、宮崎市田野町及び清武町並びに東諸県郡国富町に相次いでソーラーパネル製造工場を竣工させた。このうち、国富町に立地する宮崎第3工場は、世界最大級の生産規模（900メガワット/年）を有した大規模工場であるが、この工場は、以前はプラズマディスプレイを製造していた大規模工場であった。同工場でプラズマディスプレイを製造していた企業が撤退した後に、ソーラーフロンティア株式会社が工場を購入し、大規模なソーラーパネル製造工場として再出発させたものである。

宮崎県内におけるメガソーラーの立地については、平成8(’96)年に走行実験が終了した後に、日向灘沿いに撤去されずに残されていたリニアモーターカー実験線の高架上約3.6kmに、太陽光パネル12,520枚を配置したメガソーラー発電所が平成23(’11)年に完成している。また、平成24(’12)年6月20日には、JR九州が都城駅の北側にメガソーラー（最大出力約2,000キロワット）を建設し、太陽光発電事業を行うことを発表した。このメガソーラーについては、JR九州の所有する未利用地（約23,000㎡）を活用して建設される予定となっている。ちなみに宮崎日日新聞ホームページによると、このメガソーラーの発電電力量は年間約215万キロワット時で、一般家庭約530世帯分と報道されている。



「リニア実験線跡の高架上に設置されたメガソーラー設備」



「JR九州が計画している都城駅北側の未利用地（現状は空地）」

遊休地の利活用策として、遊休地にメガソーラーを設置する動きは全国的な広がりを見せているところであるが、宮崎県内でのメガソーラーの設置の動きについて、遊休資産の活用策という観点から今後も注目をしていきたい。